

平成 29 年 1 月 13 日

長崎県公立大学法人		
協定締結式		セミナー
担当	総務課 松尾、富田	企画広報課 政野、前田
TEL	0956-47-2191	0956-47-5856

## 全国公立大学初！人間文化研究機構とのクロスアポイント メント制度に関する協定締結式及びセミナーの開催について

長崎県公立大学法人と大学共同利用機関法人人間文化研究機構は、長崎県公立大学法人の教育研究等のさらなる向上を図ることを目的に、クロスアポイントメント制度に関する協定を締結いたします。本協定の締結は、全国の公立大学として初です。

本協定に基づき、人間文化研究機構所属の研究者が組織の枠を越え、長崎県立大学にも所属し教育研究活動を行います。つきましては、下記のとおり調印式を開催いたしますので、お知らせいたします。

### 記

- 日 時 平成 29 年 1 月 19 日（木） 14：00～
- 場 所 長崎県立大学佐世保校 第 1・2 会議室  
（佐世保市川下町 123）
- 内 容 調印・協定書交換、機構長・理事長挨拶
- 出席予定者 人間文化研究機構 機構長 立本 成文  
長崎県公立大学法人 理事長 稲永 忍 他

#### ※クロスアポイントメント制度とは…

大学法人、研究開発法人、民間企業等が機関間でクロスアポイントメントに係る協定書等を締結することにより、職員がそれぞれの機関で「常勤職員」としての身分を有し、それぞれの機関の責任の下、必要な従事比率（エフォート）で業務を行うもの。

※人間文化研究機構セミナーを同日 15：00 から開催します

## 人間文化研究機構セミナーについて

1. 日時 平成29年1月19日(木) 15:00~16:00
2. 場所 長崎県立大学佐世保校 新館504教室(主会場)  
シーボルト校 中央棟M103講義室  
(遠隔会場)
3. セミナー内容
  - (1) 講演会 (約20分)  
演題：人間文化研究の中心—人文機構紹介—  
講演者：人間文化研究機構 機構長 立本 成文
  - (2) 講演会 (約40分)  
演題：長崎シュガーロード  
～砂糖・長崎・人間文化～  
講演者：人間文化研究機構 理事 佐藤 洋一郎
4. 聴講者 長崎県立大学学生・教職員、一般県民

# 人間文化研究機構

National Institutes for the Humanities

<http://www.nihu.jp/>

人間文化研究機構は、6つの大学共同利用機関を設置し、各機関において人間の文化活動並びに人間と社会及び自然との関係に関する基盤的研究を進めるとともに、各機関の連携協力を通して、人間文化に関する総合的で多様な研究を展開させ、学術文化の進展に寄与することを目指しています。



人間文化研究機構長  
立本 成文



## 国立歴史民俗博物館

1

National Museum of Japanese History

文献を主な資料とする歴史学、遺跡や遺物から人類史を探る考古学、伝統的生活文化・伝承を研究する民俗学、関連する人文・自然科学などが協業して資料の収集・保存と調査・研究を行い、日本の歴史と文化を総合的に研究しています。

## 国立国語研究所

3

National Institute for Japanese Language and Linguistics

アクセント、語彙、文法、消滅危機方言、コーパスなど日本語研究の現代的諸課題について、外国語との比較や日本語教育への応用なども含めた多角的観点から国内外の諸機関と共同研究を推進しています。また、資料・情報を広く社会に発信・提供し共同利用に供します。

## 総合地球環境学研究所

5

Research Institute for Humanity and Nature

地球環境問題の解決に向けて、既存の学問分野の枠組みを超えた総合的視点に立つ総合地球環境学を構築するために、国内外の研究機関と連携して、人文・社会系から自然系までの幅広い学問分野を総合化する研究プロジェクトを推進しています。

## 国文学研究資料館

2

National Institute of Japanese Literature

日本文学とその関連資料を大規模に集積し、日本文学をはじめとするさまざまな分野の研究者の利用に供するとともに、日本の古典籍に関する資料研究の蓄積を活かし、国内外の研究機関・研究者との連携を行い、日本の古典籍を豊かな知的資源として活用する、分野を横断した研究の創出に取り組んでいます。

## 国際日本文化研究センター

4

International Research Center for Japanese Studies

日本文化について国際的な観点から研究課題を設け、国内外の多くの研究者の参加を得て、共同研究方式による国際的・学際的・総合的な研究を行うとともに、国内外の研究者・研究機関に対して日本研究に関する情報・資料の提供や研究協力を行っています。

## 国立民族学博物館

6

National Museum of Ethnology

文化人類学及び関連する諸分野の研究拠点として、人類の多様な文化・社会に関する研究・調査を行っています。学際的共同研究をはじめ国際的研究集会を実施するとともに、資料・情報の共同利用を進め、博物館活動等を通じて広く社会との連携を目指しています。



1



2



3



4



5



6

1 夏休みに行われた企画展示「弥生ってなに?!」では、関連イベントの一つとして、発掘調査などに基づいて再現されました、弥生人の成人女性と女兒の衣装とアクセサリーを試着できる「弥生人の衣装体験コーナー」が設けられました。

2 平成27年1月から、通常展示「書物で見る日本古典文学史」を開設しました。上代から明治初期までの文学を、書物によってたどります。最近の研究動向にも配慮はしましたが、むしろ教科書でなじみの深い作品を中心に据えて、文学史の流れを示しました。

3 近年、日本で生活している外国人や留学生の増加に伴い、日本語学習の需要が高まっています。第二言語(外国語)としての日本語の教育・学習を巡る様々な今日の課題に対して、学習者の日本語のコミュニケーション能力に関する実証的研究を行っています。

4 「七福神：明治十六年略暦」。国際日本文化研究センターが所蔵する資料の一部はウェブ上でも公開しています。

5 調査地(ブルキナファソ南東部)で畑を耕す子ども達と共に見よう見まねで汗を流す研究員。地球研は世界各地に調査に出かけて、人と自然とのつながりを研究しています。

6 本館展示の新構築を行い、東アジア展示(朝鮮半島の文化、中国地域の文化、日本の文化)を平成26年3月に一般公開しました。